

## 生体腎移植を見学して

生命科学科1年 森 沙也子

先日の生体腎移植の見学は、私にとって非常に良い経験となりました。私は、移植手術に限らず、手術自体を見るのが初めてでした。テレビや写真を通してしか見たことがなかったので、人の体の中や臓器を自分の目で直接見たのも初めての経験でした。たくさんの器具を使って、小さな血管なども素早く器用に扱う先生方はやはりさすがだと思い、驚きながら見ていました。それから、私は立って見ただけだったにも関わらず、足が疲れて途中集中力がとぎれたりしていました。何時間も立って神経を張り詰めて手術される先生方の体力と精神力はすごいと思いました。私は、将来臨床ではなく、研究に進みますが、研究でも体力は必要だと思います。自分の体力と精神力はまだまだだと改めて実感させられました。また、移植手術の際は、医師は患者の健康面だけでなく、そのほかにも患者の精神面や倫理面、経済面を考える必要があることを知りました。生体移植は血縁関係のある者からの移植になるので、ドナーが本心を言いたせないこともあり、レシピエントもドナーに対して負い目を感じる事が多く、そのような場合に精神科のドクターが診療をおこなうということも知りました。移植手術だけでなく、他の手術の場合にも言えることだとは思いますが、手術というのは患部を治すだけではなく、患者の精神面や経済面までを含めたトータルのこととして考えなければならないのだと実感しました。移植手術の場合は特に、それを怠れば大きな問題に発展するのだと知りました。

移植には様々な倫理問題があり、難しい面もあると思いますが、移植によって救うことができる命はたくさんあると思います。死体移植は脳死に対する様々な考え方があり、また、ドナーの数も少ないですが、生体移植が増えることによって、移植を受け助かる人の数も増えると思います。今回、生体腎移植手術を見学して、多くの刺激を受け、これからの勉強に対する意欲を高めることができました。移植をはじめ、様々なことに関しての自分の知識不足を感じ、これからもっと幅広く多くのことを学びたいと思いました。

今回は、貴重な体験をさせて下さって、本当にありがとうございました。これからの自分につなげていきたいと思っています。ありがとうございました。